

民主党の分裂について



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 民主党神奈川18総支部 幹事長
- 民主党神奈川県政策委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住

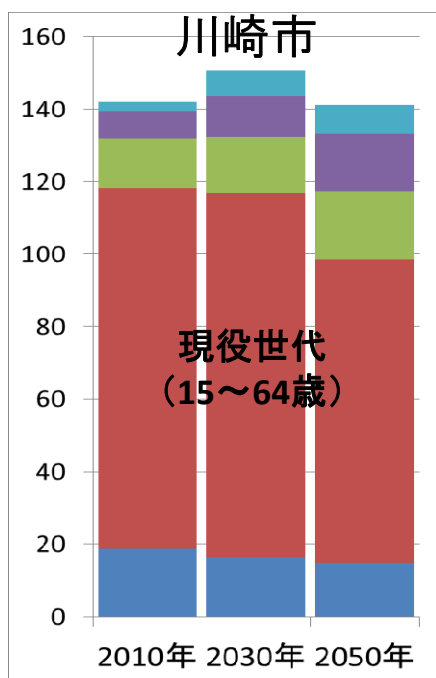
すでにご案内の通り、消費税問題をめぐる考え方の違いを契機として、民主党の分裂が決定的となりました。メディア等の報道によれば、小沢一郎元代表を党首とする新政党は、この11日にも発足するとのことであります。理由はどうであれ、結果的に分裂に至ってしまったことは、民主党の一員として深く責任を感じるとともに、政治を志した一人として心から残念に思います。

民主党が結党したのは1996年でした。1993年に誕生した細川内閣は、政治改革の一環として小選挙区制の導入を行いました。戦後半世紀以上も続いた自民党による単独政権は、わが国の高度経済成長を支えたものの、他方で政官業の癒着構造を強固なものにするなど、制度疲労とも思える様々な問題も生み出しました。

わが国全体がどうなっているのか。そして、私たちの力でどう変えることができるのか。まず私たちの足元を明らかにするには、少なくとも政権交代が可能な政治システムが必要であり、そうした問題意識が結実したのが小選挙区制の導入だったと思います。

1998年には、「生活者、納税者、消費者の立場に立ち、自民党に代わる政権政党になること」をめざして、民政党や新党友愛などと合流し、新たな民主党が誕生しました。その後、2003年には自由党と合併し、2009年に歴史的な政権交代、選挙を通じた政権交代につながりました。

これまでの3年間で、高等学校授業料無償化や肝炎対策基本法の成立など、政権交代があったからこそ実現できた政策も少なくありません。しかし、その一方で、国民が政権交代に期待した成果をどこまで達成できたのかということで見れば、残念ながら厳しい評価を受け入れざるを得ないと思います。



わが国は2006年をピークに、すでに人口減社会に突入しています。川崎市については、まだ人口増が続いており今後40年程度は現在の人口規模を下回ることはないと思われるものの、同時に急速な高齢化も進行しつつあります。また、生産年齢人口もほぼ横ばいとなりつつある中では、今まで以上に政策の優先順位付けが求められています。

今一度、日本が、そして川崎市がどうなっており、私たちの力でどうなりうるのかを冷静に見つめなおし、主権者である私たち自身が丁寧に熟議を重ねることが必要だと思えます。

私自身、原点に立ち返り初心にもどって、地域住民の一人として取り組んでいく決意を申し上げます。

前川崎市議会議員 堀添 健

川崎市における放射線測定結果(7月11日現在)

浄水場：川崎市内の2か所の浄水場では、毎日放射能測定を行っていますが、昨年4月22日以降、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも検出されていません。

大気：公害研究所（川崎区）、麻生大気測定局で、放射線量実態調査を毎月行っており、地上5cm、50cm、100cmとも自然界の放射線レベルの範囲内です。（4月は10日に実施）

市内農産物：果菜類（トマト、きゅうり）、根菜類（さつまいも、大根、玉葱）、果実（梅、梨、柿）の出荷前チェックでは、昨年5月に梅（セシウム：29.5ベクレル）、10月に柿（セシウム：4.5ベクレル）から検出された以外は、検出されていません。
（食品衛生法上の基準値は一般食品100ベクレル/Kg以下、乳児用食品と牛乳50ベクレル/Kg以下、飲料水10ベクレル/Kg以下）

農用地土壌：多摩区の畑（露地）で3月に県が実施した土壌調査では、合計40ベクレル/Kgのセシウムが検出されました。（上限値は5000ベクレル/Kg）

下水汚泥等：入江崎総合スラッジセンター（6月25日測定） 放射性セシウム測定
脱水汚泥：99 Bq/Kg 汚泥焼却灰：2,372 Bq/Kg
（焼却灰は飛散防止処理の上、施設内等で安全に保管されています。）

ごみ焼却灰：橋処理センター（6月12日測定） 放射性セシウム測定
主灰：159 Bq/Kg 飛灰：480 Bq/Kg 排ガス：不検出
（飛灰は飛散防止処理の上、臨海部保管施設等で安全に保管されています。）

**放射線測定器の貸し出しを高津区役所でも行っています。
（電話予約が必要です。044-861-3113）**

連載コラム

川崎と高津の地名（No.1） 参考：日本地名研究所編「川崎の町名」

「川崎」の由来

本年7月に、市制88周年を迎えた川崎市ですが、「川（河）崎」という地名は平安時代にまでさかのぼります。地名の由来は二説あり、桓武平氏の流れをくんだ秩父氏の一族で、河崎庄（ほぼ現在の川崎区）を開発したといわれる河崎冠者基家にちなむというのが一説です。なお、稲毛神社は河崎基家の館跡であるといわれており、神社東の池が館の堀の跡であるとのこと。

地名由来のもう一説は、この地が多摩川の先に位置することから「川崎（河崎）」と呼ばれるようになった

たというものです。こうした自然地名に由来する「川崎（河崎）」は、全国に50以上あり、たとえば沖縄県具志川市にも川崎という地名がありますし、新潟県内には川崎とつく地名が8つもあるそうです（角川地名大辞典による）。それらの多くは、川の対岸や川の分岐点、河口付近など、やはり川の流域に多くが見られます。

研究者によると、自然地名に由来するという後者の説が優勢のようですが、いずれにせよ地名の由来を平安時代にまでさかのぼれるということは、大和朝廷時代の橋樹郡とともに、この地における歴史の重みを感じさせます。

※2004年10月から掲載し、好評をいただきました「川崎と高津の地名」。

今号より、加筆補正の上、再度連載していきます。よろしくお願いいたします。

政治資金ご寄附のお願い

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294